

認知行動療法研究誌4号：表紙,目次,編集後記,奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-04-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2102

武蔵野大学

認知行動療法研究誌

【巻頭言】

■特集 “Meet the Expert” に寄せて

中島聡美

【特集：Meet the Expert】

■新しいヒト蛋白質研究のための基盤構築：網羅的なヒト蛋白質の人工合成

五島直樹

■「死刑不可能論」再訪

一ノ瀬正樹

学会便り／書評／活動報告／投稿規定／編集後記

武蔵野大学認知行動療法研究誌 第4号

目次

巻頭言

特集 “Meet the Expert” に寄せて 中島聡美… 1

特集：Meet the Expert

新しいヒト蛋白質研究のための基盤構築：網羅的なヒト蛋白質の人工合成
..... 五島直樹… 2

「死刑不可能論」再訪 一ノ瀬正樹… 11

学会便り：第18回日本司法精神医学会大会 大岡友子 他… 33

書評：『ケアする人の対話スキル ABCD』 出野美那子… 34

活動報告 35

投稿規定 37

編集後記 40

編集後記

編集委員

浅野敬子、泉明宏、大山みち子、菊池安希子、小西聖子、小西啓史、今野理恵子、城月健太郎、
辻恵介、出野美那子、中島聡美、成澤知美、藤森和美、矢澤美香子（編集事務：牧野みゆき）
（五十音順）

COVID-19の感染は未だ続いておりますが、社会は通常に動き始め、認知行動療法研究所に来所されるクライアントの方の数は、コロナ禍以前の状態に戻ってきています。コロナ禍は、対面で長期の心理面接を行うことの課題— COVID-19のような問題が出てきた場合に、治療が中断してしまうリスクを明らかにしました。これに対して、オンライン治療や、アプリを用いたセルフケア、より短期間で行われる心理療法など様々な治療技法の研究が進められています。新たな治療やケアの開発の上では、生物学的な知見、社会心理的知見、哲学的視点など多角的な視点が必要とされます。今号での特集はその端緒となるものと思われまふ。武蔵野大学認知行動療法研究誌では、今後も、認知行動療法に限定せず、広い視野からの研究を取り上げていきたいと考えています。（SN）

With コロナの状態が継続している中、コロナ後にも目を向ける時期に来ていると感じております。コロナ禍で学んだことを、認知行動療法をはじめとする心理臨床分野で、どのように発展させるかが今後の課題となると考えています。また、今号の特集で、他領域の専門家の深淵なる学理をご紹介したことが、皆様方の今後の研究の一助になれば幸いです。（RK）

今号はバイオロジーから哲学、司法精神医学、臨床心理学まで様々な領域を通して認知行動療法を考える関心深い内容となっていると思います。今後も企画できたらと思います。発刊に際しご協力ご指導いただきました皆様、心より感謝申し上げます。（MM）

武蔵野大学認知行動療法研究誌 第4号

2023年3月 印刷・発行

発行 武蔵野大学認知行動療法研究所
住所 東京都江東区有明3-3-3
印刷 株式会社ワコー

Journal of Musashino University of Cognitive Behavioral Therapy and Research

Vol. 4 Mar. 2023

CONTENTS

【Preface】

■ Special issue on “Meet the Expert”

Satomi Nakajima

【Meet the Expert】

■ New approach of human proteome research: Comprehensive artificial synthesis of human proteins

Naoki Goshima

■ Revisiting “the Impossibilism of the Death Penalty”

Masaki Ichinose

Conference report/Book review/ Research progress report/ Submission guideline/ Editorial note

Published Annually by
Cognitive Behavioral Therapy and Research Institute
Musashino University